

あびこの文化

発行人 大洋 美崎
我孫子市 高野山
250-23
04(7182)
0861

第二十九回記念文化講演会

女性道場主が「嘉納精神」を熱く語る

今回の講演会では「柔道ってなに？どんな武道？」というお話など、はじめて柔道に触れる方にも分かりやすく語っていただきます。「柔道を通して子供たちをどう育むか？」日々、子供達と向き合い実践してこられた坂東さんならではのお話がたくさん！

お子さまに「あびのびと力強く育って欲しい」と願う皆さまにぜひ聞いていただきたいです。お子さまも楽しめるよう、柔道の動きを取り入れた運動なども行います。動きやすい服装でお越しください。お誘い合わせの上、お気軽にご参加ください！

■ 日時 五月二十六日(日)

午後1時開演(12時30分開場)

■ 会場 アビスタホール(我孫子地区公民館1階)

■ 共催 我孫子市教育委員会

我孫子の文化を守る会

演題 「柔道っておもしろい！」

～親子でまなぶ柔道の魅力～

講師 坂東真夕子氏(文武一道塾主・道館館長)

講師の略歴 1977年生まれ 講道館柔道五段(2019年5月現在)。

高知学芸高等学校卒業後、横浜国立大学へ進学。卒業後、警視庁へ入庁し、27歳まで選手として活躍。警視庁退庁後、民間企業にて営業職やマネージャーを務める。

2013年 文武一道塾志道館を設立。

2019年四ツ谷本部道場に続き2号館となる港南道場を設立。



「観桜会」で募金活動を実施

4月1日(月)「我孫子の景観を育てる会」が主催する恒例の我孫子ゴルフ倶楽部での「市民観桜会」が行なわれた。当日、午前中は快晴で午後は若干曇りが出たが、まあまあ散策・お花見日和であった。ゴルフ場内の桜はソメイヨシノについては七、八分咲きであったがヨウコウザクラは満開で絶好の観桜会となった。



当日、育てる会のご厚意で当会では「嘉納治五郎銅像建立」のための募金箱を持ち込み「ちらし」を入場者に配布した。お蔭様で当会の活動を知らせて頂く機会となつたばかりでなく入場者の一部の方から募金箱(寄付金を頂く)ことができた。

改めて景観を育てる会、我孫子ゴルフ倶楽部の関係者の皆様にお礼を申し上げます。(写真は我孫子の景観を育てる会のホームページから)

「市史研」が銅像建立基金呼びかけ

我孫子市史研究センターについては治五郎銅像建立プロジェクトに対して当初から協力団体として「ちらし」などにも名前を掲載させて頂いていますが、今回、関口一郎会長が「市史研会報第206号」で会員に対し次のように呼びかけています。

「嘉納治五郎の銅像建立にみんなで協力しましょう！・・・我孫子に嘉納治五郎の銅像を建てることの趣旨や意義については、市史研も早くから賛意を表し、広報活動などの事業には協力してまいりました。またこれからも支援を続けていきます。ただ会としてまとまった額を募金することについては、会の財政面から難しい状況にあります。従って募金については、会員各位が自発的に募金活動に参加していただくことに期待するしかありません。なにとぞご協力についてお願い申し上げます。・・・」

嘉納治五郎銅像建立委員会から

嘉納治五郎銅像建立基金の中間報告

来年6月までに嘉納別荘跡(天神山緑地)に銅像を建立する計画で寄付金を募っていますが、会員から「現在寄付金の集まり具合はどのような状況か？」という質問を受けることがあり、現在までの状況を報告します。

4月末現在で目標額(900万円)の4割弱ということになっていきます。会員の皆様には引き続き、本件の趣旨と意義を周辺の市民の方々に呼びかけて頂き、理解を貰うようお願いする次第です。

「郷土資料館」について星野市長を訪問

3月22日(金)、郷土資料館の建設を要望する「五団体」が市役所の市長室に星野市長を訪ねた。

12月に市が公開した「文化交流拠点施設建設構想(案)中間報告」に対して五団体が提出した意見書についての説明が目的で、市役所からは星野市長、長谷川企画財政部次長、安武企画課主査、望月生涯学習主査長の4名が応対された。

五団体から、郷土資料館のない我孫子市の歴史資産の現状の説明と歴史に関する市民への情報発信や教育の場所として常設展示場やセミナールームの必要性、さらに歴史遺産の保管施設の確保について要望した。

一方、市長からは「市は市民の様々な要望に応えるべく努力をしている。現在「文化交流複合施設」としての計画を企画課中心に練っていること、6月以降に市内5ヶ所で開催予定の「ふれあい懇談会」で中間報告を発表する」との回答があった。

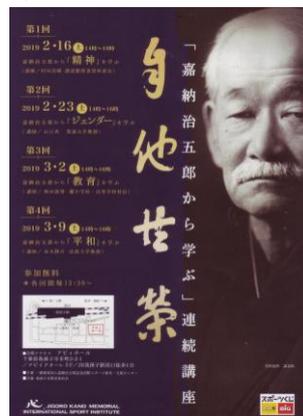
二〇一九年度総会を開催します

5月26日(日)の文化講演会終了後、午後3時30分からアビスタ第4学習室で今年度の総会を開催します。新年度の活動を決める重要な場です。多くの会員の出席を期待します。

「嘉納治五郎から学ぶ」連続講座 報告記

三谷 和夫

講道館を創設し、東京高等師範学校(現筑波大学)校長を勤め、大日本体育協会(現日本スポーツ協会)及びオリンピック委員会を設立。そしてアジア初



のオリンピック委員会(IOC)委員として、国内外の体育スポーツの発展に多大の貢献をした嘉納治五郎。二〇二〇年を目前にして嘉納の実績には高い関心が寄せられている。明治維新を経て日本が大きく変化していた時代にあつて、嘉納は教育とスポーツを通して国際社会に貢献できる人材の育成に取り組んだ。この嘉納の残した先見の思想や哲学、業績などを四人の専門家の視点から紹介する連続講座が行なわれ、極めて有意義であつた。以下その一斑を報告したい。

第一回(二〇一九年二月十六日(土)十四時〜十六時)

「嘉納治五郎から「精神」を学ぶ」講道館図書資料部長 村田直樹氏

氏は昭和二十四年埼玉県生まれ。東京教育大学大学院体育学研究所修士課程終了。現在講道館参与。日本武道学会副会長。平成二十六年秩父宮スポーツ医科学賞受章。講道館八段。



嘉納治五郎は「嘉納治五郎先生」、「嘉納師範」または単に「師範」と呼ばれるが学会では「嘉納」と呼ばれる。

る。表題に「精神」を学ぶとあるが、精神は目に見えぬものであり、生涯全体で何をしたかを見なければならぬ。柔道には形と乱取があり、ここでは講義と問答を進めたいとして、随時質問をし応答のやり方で話は進められた。先生が十歳頃の写真などを映し、「精神」を知るために、一・心、たましい、二・根気、気力三、理念について先生のすべての行動を紹介したいと詳しく紹介された。「強くなりたい、何くそ」の思いで十歳頃から柔術の修行に励まれた。柔術は無手あるいは短い武器を以て相手を攻めまた自らを守る術であり、先生はこれに大いに打ち込まれたが、それから柔術を良しとしながらも明治三十一年に柔道に発展されたのだ。柔道では体育的価値も認め、

一・心身の鍛錬に効能ある修行、特に 全身にわたることを大切にされた。
二・日本の固有性を以て世界の恩に報いたいということであつた。

現在世界柔道連盟に加盟する国は二〇〇ヶ国ほどあり、これは国際連合の加盟国の数より多いことに注目すべきである。先生が柔道始めた契機は「強くなりたい」思いがあつたが全身の偏らない発達が必要とされた。野球・ボートほか色々のスポーツにも参加したが、やはり柔道では全身によるものであることが大事だ。同時に辛抱、忍耐力の向上に柔道は効果があるとされた。

第二回(二〇一九年二月二十三日(土)十四時〜十六時)

「嘉納治五郎から「ジエンダー」を学ぶ」筑波大学教授 山口香氏

氏は柔道家。一九八四年第三回世界柔道選手権で日本人女性として史上初の金メダル獲得。一九八八年ソウルオリンピックでも銅メダルを獲得。シドニー及びアテネ五輪で日本チームのコーチを務めた。現在筑波大学教授、スポーツ全般の普及発展、女性の地位向上に取り組んでいる。

「私が柔道に興味を持ったきっかけはテレビで「姿三四郎」の番組を観てから。当時はまだ「女だてら」とか

「女のくせに」といった風潮が根強い時であつたが、おらかな母親は「やりたければやったら」と言ってくれた。当時、道場で女の子は私一人だったので、男の子たちの中に入って練習していた。」と回顧。



嘉納が正式に女性に門弟として入門を許したのは明治三十四年大場久子であるが、本格的に女子の指導に力を入れたのは明治三十七年に入門を許した安田勤子からと言える。大正十五年講道館に女子部ができた。嘉納の女子への科学的な指導は誠に厳しかった。一・食事について、二・ダンベルで体を鍛える、三・受身の訓練、四・病院で身体の診断を受ける、五・富士登山すること、といった次第。また女子のみの厳しい条件として申込診断の他に戸籍謄本(出身地を見る)の提出、面接を課した。嘉納は女子柔道で試合は禁止、暫くはとしたが、その理由は試合となると勝負にこだわら、本気になる結果、無理をして怪我や病気になるからということであり、決して男女差別、女性蔑視ではなかつた。嘉納の意図は女子柔道を広めるために女子指導者を育成することであつた。女性指導者の養成の必要性はその後十分に進まず、今日でも未だ課題とされている。既にオリンピックでも柔道が採用されて柔道に強い女子を養成することも大事であり、これも課題と言わねばならない。「体力のない女子柔道こそ講道館の真の柔道が受け継がれている。女子柔道は講道館の真の姿の継承である」と言った。また福田敬子は九十三歳で九段に進んだが、指導者としてアメリカに渡つて志を果たした。アメリカでは柔道家としてやつていけるだろうということである。

「我々、柔道家が継承すべきは嘉納の理念であり、事象ではない。」「今後とも必要なことは女子柔道普及のための女性指導者の実現である。」「自分でも他人でも、自国でも他国でもともに栄える「自他共栄」を目指さなければならない。」「

平成二十四年に中学校での武道必修化が実施され、柔道の理想的教育が求められている。嘉納の言葉をそのまま学ぶのではなく、解釈しながらその理念を学ぶことが大事と言わなければならない。

なお「ジエンダーとは何か？」との質問があったが、これは古い辞書には出ていない。生物学的な性別に対して社会的、文化的に形成された性別を言い、「作られた男らしさ、女らしさ」とも言われる。「ジエンダーフリー」という和製語があり、「社会的、文化的に形成された性差別の克服を目指す考え」を言い、最近話題に上がることがある。

第三回二〇一九年三月二日(土)十四時～十六時

「嘉納治五郎から「教育」を学ぶ」灘中学校・高等学校 校長 和田孫博氏

氏は昭和二十七年大阪生まれ。灘中学校に入学し、中高六年一貫教育を受ける。京都大学文学部文学科(英語英文学専攻)卒業。母校で教鞭をとり野球部部长を歴任。現在は校長。京都大学特任教授のほか私立中高等学校連合会の役員。



(旧制)灘中学校は昭和二年に嘉納治五郎の格別の尽力により創立。嘉納は顧問として招かれた。また三人の酒造家「菊正宗」の嘉納治郎右衛門、「白鶴」の嘉納次兵衛、「櫻正宗」の山邑太左衛門の篤志を受けた。嘉納治五郎は白鶴嘉納家から招かれたのであり、治五郎の愛弟子である眞田範衛が初代校長となった。

同校は初め旧制神戸一中(現神戸高校)などの滑り止め校だったが、今は卒業生の多くが東京大学、京都大学に入学し、最近では米ハーバード大学などへ進む日本有数の進学校であり、名門高校として西の雄「灘高校」を外すことはできない。作家の遠藤周作を始めとして大学名誉教授、衆議院議員、大臣、社長など著名

なOB・OGに事欠かない。二〇〇一年ノーベル化学賞を受けた野依良治氏も同中・高校OBの一人だ。同氏は中学入試でギリギリの合格だったというが高校では柔道部に入学し心身共に鍛えられたという。

嘉納治五郎は十歳で上京し勝海舟の勧めもあり積極的に英語を勉強しており、またその後ドイツ語・フランス語を勉強したからヨーロッパの教育事情視察においてその語学力を活かして各国の要人を訪ねたことと思われる。一八八九年フランスのパリでは教育と宗教を分けるべきと言いい、またその翌年にビスマルク失脚後のドイツを見て教育と政治を分けるべきと言っている。訪欧後の五高校長時代にはラファディオ・ハーンを英語教師に招いた。一九二二年には日本英語協会の会長も務めた。

嘉納は東京高師の校長を永く務めたが、清国の留学生の教育も引き受けた。この留学生の旅費についても清国がなくなり旅費に困った者に私費を投じて援助した。これが嘉納の借財となったようだ。

ロンドン滞在のとき、イートン校を訪ねたのかとの質問に対して和田氏は公式の来客簿(校長に会ったには記録はないが一般の見学については不明、雰囲気は手賀沼に似ているイートン地区を見たのではないかと、恐らくエリート校のイートン校、ウエスト・ミンスター校について訪問しただろうと確信しているとのことであった。また若し我孫子に学園が出来たら灘中学校は出来なかつたかも知れないとのことであった。

第四回二〇一九年三月九日(土)十四時～十六時

「嘉納治五郎から「平和」を学ぶ」法政大学教授 永木耕助氏

氏は一九五八年大阪府生まれ。筑波大学大学院体育研究科修士課程修了。博士(体育科学)。現在法政大学スポーツ健康学部・大学院研究科教授。

嘉納は大正元年オリンピック・ストックホルム大会の後にアメリカ本土及びハワイに立ち寄りて以来、外遊途上で本格的な柔道の宣伝を行なった。諸外国では日本人の居留する所を主に訪ねたが、その点ワイは早く

から多くの日本人が移民として渡っている。大正三年に嘉納は日本人移民の営む柔道場を訪ねている。有名な柔道場「尚武館」と「春揚館」は嘉納が命名したものである。尚武館の北山弥次郎はハワイで「未曾有の柔道大試合」と称する興行に参戦した。この外、アメリカ、イギリス、南米、ドイツ、フランスでは柔道普及の主要人物が嘉納と関わりを持った。このように諸外国で柔道普及に努める中で嘉納は敵を作らず、各国の要人とも会い、顔が知られていく。そして平和主義者と言われるオリンピックのクーベルタン(フランス)と親交を結ぶことにもなる。アジアで初めてオリンピック開催の決定を勝ち得たのであった。戦争のために実施にいたらなかったのは誠に残念であった。私見ではあるが若し戦争がなくて東京オリンピックが実施されていたとしたなら(歴史で仮定の話はないのだと思うが)嘉納治五郎はノーベル平和賞の少なくとも候補に挙げられたのではないかと思う次第である。自ら柔道を創設して世界に普及すべく尽力し、また柔道をオリンピックに導入し、アジアでもオリンピックを開催するのは、国際親善のための貢献多大なものと信ずるからである。

嘉納が発表した「精力善用」「自他共栄」は有名である。「精力善用」とは「心身の力を最も有効に使用する」という意味であり、「善」とは団体生活の存続発展を助けるものである。

嘉納はまた「精力善用」は「自己充実の原理」であり、「自他共栄」は「融和の原理」であるという。このような観点で今日のオリンピックを見ると、競技は勝負であるとはいえず、その勝ち負けに拘わり過ぎないか、もう一度見直すべきであると思われる。

質問で「嘉納が平和のためどんな活動をしたか？」に対して、講道館を軍の宿舎に借りた旨の要請に対して、嘉納ははつきりと断った事実があるとの回答があった。



プロジェクト報告

我孫子の巨木・名木を訪ねる会

「樹木観察会報告」第24回

【取手・高源寺の地藏ケヤキと高井城址周辺】

実施日：三月十五日(金)

牧田 宏泰

本日3月15日(金)は、利根川を渡り、お隣の取手市北西部地域(旧藤代町含む)の巨木・名木・自然を訪ねる散策である。

2013年にスタートした巨木を訪ねる会(プロジェクトリーダー：佐々木 侑さん)は、我孫子全域の探訪を、一先ず終了、続いて近隣地域の探訪「樹木観察会」が2年半前からスタート、東葛、下総、茨城、東京地域まで足を延ばしての散策が続いている。

本日は、午前9時総勢9名(内女性2名)で「我孫子」を出発、取手経由関東鉄道常総線の「ゆめみ野」に降り立った。

駅北側に開発された、ニュータウン街を抜けて、春を感じる穏やかな日和の中、探訪地域「下高井」に入る。

1. 高源寺

10時前に最初の訪問先「高源寺」に到着。ここは、2年少し前の晩秋にも訪れたので、寺の詳細説明は省くが、山号は「普蔵山」、臨済宗の名刹である。931年(承平元年)に建立、開基は1368年(応安元年)、開山は鎌倉建長寺より招いた「夢窓国師」と伝えられている。本尊は釈迦如来。山門をくぐると本堂前左手に、茨城県指定文化財・天然記念物指定、且つ新日本名木100選の巨木「地藏ケヤキ」が構える。何度見てもその存在感到に圧倒される。



る。樹齢：約1,600年、幹回り：10メートル余り、樹高は約15メートル(左上写真)に見られるように幹には大きな空洞があり、中には安産祈願といわれるお地藏さまが立つておられる。言い伝えでは、寺の火災の際にケヤキも被災したとのこと。芽吹きはもう少し先になるのか。境内には他に「スダジイ」(右下写真)「カヤノキ」の巨木がある他、赤い花を付けた「ツバキ(紅唐子)」、「クスノキ」の巨木、「イチヨウ」等多種の木々がある。本堂手前右に大師堂があり、新四国相馬霊場八十八第四十九番札所となっている。ここで本日の記念写真(下写真)を撮る。

2. 香取八坂神社

続いて、高源寺の隣り合わせに「香取八坂神社」がある。神社の創建は不詳。もとは「香取神社」と称していたが、1911年(明治四十四年)に「八坂神社」と「八幡神社」を合祀、1924年(大正十三年)に「香取八坂神社」と改称したとのこと。石造りの門をくぐり、長い参道の両脇に続く杉木立を進むと奥の拝殿右手前に「クスノキ」の巨木がある。樹齢：不明、幹回り：約



4.5メートルもある(左写真)。「スダジイ」の巨木も存在感がある。

3. 高井城址公園

香取八坂神社から歩いて8〜9分で「高井城址公園」に到着。時刻は10時30分。ここは「高源寺」や「香取八坂神社」と同様、すぐ裏手に「小貝川」が流れている。高井城址は公園のすぐ脇の高台にあり、城の築城年は定かではないが、戦国時代後期の城であったと云われ「高井」の地名が、1336年(建武三年)の相馬親胤宛の文書「斬波家長奉書」に見られることから、その時点で相馬氏の領地だったようだ。1590年(天正十八年)の豊臣秀吉の小田原城攻めの際、後北条氏とともに下総系相馬氏も滅亡。高井城は廃城となったとの説明板がある。公園脇の高井城主郭に上る細道に沿って、種々色とりどりの花を付けた雪割草などの草花を楽しみながら、「シラカシ」、「イヌシデ」、「ヤブツバキ」、「ハゼ」、「エノキ」などの木立を抜け、背丈の高い土塁、深く長く続いた空堀を見ながら進下、高井城址の河津桜



むと、その先に広場(主郭跡)が開けた。そこには満開の「河津桜」が数十本咲き誇り、その景色に暫し我を忘れて見入ってしまった。

4. 妙見八幡神社・妙音寺跡・大師堂

高井城址公園から直ぐに、相馬氏の氏神である妙見さまを祀る「妙見八幡神社」があるが、眼に入る木々はない。「妙音寺」は廃寺で、そこには「大師堂」旧堂と並ぶ2堂があり、新四国相馬霊場八十八霊場第五十二番札所となっており、龍の彫刻の飾られた旧堂には彩色の施された大師座像、現大師堂には石造りの座像が祀られている。ここで時刻は11時少し前となった。

5. 伝 桔梗姫入水の地

大師堂から岡地区に入り、左手の小高い丘(平将門に纏わる城郭跡と愛妾「桔梗姫」を住まわせた「旭御殿」跡があるとのこと)を見ながら旧耕作田地帯を20分ほど進むと、承平そして天慶の乱(935~940年)と続いた戦により、将門が討たれ死去により「最早これまで」と桔梗姫が入水し命を絶った地「桔梗姫入水の地」がある説明板に到着した。続いて、次の探索場所の小高い「岡台地」に向かった。

6. 岡神社・大日山古墳(茨城県指定文化史跡)

高さ:2.8m・底径:18m

11時30分に、小高い丘の先端近くを少々上った所にある「大日山古墳(円墳)」に到着。古墳の上に「岡神社」があり、古墳は未発掘のままである。古墳横の広くなつたところに「平将門」の居城、「桔梗姫」の旭御殿があったとのこと。墳墓の周りには、中近世にな



り「大日信仰」が盛んになったところに建てられた「石碑」「石造仏」が多数ある(左上桔梗塚の岡神社)。

7. 仏島山古墳(旧藤代町指定史跡) | 高さ:不明・底径:30m・岡台地と平将門「標柱」

この古墳は円墳、かつて島状であった。平将門に纏わる史跡とのことだが、詳しいことは不明(右下写真)。「岡台地」と「平将門」に纏わる伝説はこの地に多いようだ。近くに「岡台地と平将門」との説明柱(下写真)もある。

他に、旧藤代町指定文化財彫刻として、石造の「地藏大菩薩石像」、多数の「野仏石像」がある。これらはいずれも1600年代後半に造られたとの説明板があった。

本日の巨木探策は、「高源寺」と「香取八坂神社」が見所であった。加えて「高井城址」の河津桜がインパクトを与えてくれた。

また、平将門絡みの史跡がこの地に集積している印象も強く感じ、遠い昔に想いを馳せながら、春の空気にも恵まれた散策であった。道中、所々にモクレンや見事に花を咲かせているモモも眼に入る中、12時20分「ゆめみ野駅」に戻った。帰路、取手にて遅い昼食を取りながら、語らいのひと時を過ぎし締めた。約15,000歩弱の散歩であった。



当会のヨウコウザクラ、今年も見事に開花

我孫子市が募集した「さくらプロジェクト」に応募し一昨年、手賀沼親水広場(水の館東側に植樹された当会の「ヨウコウザクラ(陽光桜)」が三月下旬、昨年に続き見事なピンクの花を付けた。ヨウコウザクラは早咲きのカワヅザクラやオカメザクラと花はよく似ているが、枝が上向きに伸び、「ほうき」を逆さに立てたような樹形になることが特徴。ヨウコウザクラも早咲きのザクラに分類されるがカワズザクラ、オカメザクラより開花は遅くソメイヨシノよりは一足早く開花する。



第十六回短歌の会(最終採択の一首)

三月二十六日実施

枯れ葦のあわいに見ゆる沼の面に
寄せ来る波は三拍子なり

山崎日出男

松に竹爆(は)ぜる音して火の盛り
静かに邪氣の去りゆく気配

納見美恵子

正しくば言わずに済まぬ吾が性(たち)を
正義感とは言ふを憚る

美崎大洋

われひとり家に祭ると折り紙を
男雛女雛に飾りて祝ふ

飯高美和子

言葉なく夕焼の空ながめあし
たらちねの母は何思ひけむ

佐々木侑

若き日に春は愁いを想いけり
今いのち萌ゆる時ぞと祈る

村上智雅子

頂を極めし時に我知らず
小槍音頭を口遊(くちずき)みけり

藤井吉彌

敗戦を決せむとして御前会議に
聖断仰ぎし君を思ひぬ

三谷和夫

渾身の鞭入りゴール駆け抜ける
馬体は風に光り輝く

藤川綾乃

あびたより87号

嘉納治五郎先生に對し

三谷 和夫

嘉納治五郎ってどんな人か。十歳にして父に伴われて上京し勝海舟に会う。咸臨丸に船酔いしつつアメリカに渡った勝から「異国を知れ」と言われ英語を学ぶ。治五郎少年は抱いたのではあるまいか。

治五郎さんは我孫子の別荘を愛したが、亡くなった時に莫大な借金を残した。遺族は東京の邸跡を始めあちこちの土地を借金のカタに取り入れ何人かは唯一残った我孫子に移り住んだ。もともと相当の資産持ちの治五郎さんがそんな借金をして何に使ったのか。遊び事ではなく世のため人のために借金をしてしまったのだ。治五郎さんはそんな人だったのだ。

治五郎さんは東京大学に学んだが、頭は良いのに体は劣っていたと自分で言う。そこで「何くそ」が始まる。昔から今も行なわれる柔術を学んだ。五年間でその柔術をマスターし、免許皆伝を勝ち得たという。どんなやり方でそれを成し遂げたのだろうか。そしてそれをさらに押し進めて「柔道」というものを編み出したのだ。いわゆる講道館の創設である。しかも早くから女子の門人も育てた。世間の目を考えて女子には特別に厳しい「おきて(掟)」を設け、最後に富士登山を成し遂げた女子に入門を許したという。それでも初めは試合はやらさず、またいわゆる黒帯は初めは白筋つきの帯を使わせたとのこと。しかし有段者となった女子の自立は甚だ困難のため、ある人はアメリカに渡り、指導をしながら自活の道を探ったとのこと。

治五郎さんは世界に柔道を広めたが、どの国にも敵は作らず有名な「精力善用、自他共栄」の精神に徹していた。自分の国もよその国も共に栄える精神で臨んだのだ。こうしてアジア初のIOC委員となった治五郎さんはストックホルムのオリンピックに初参加(TVで放映)した。

こうしてついに東京オリンピックの開催は世界で認められたのだが、戦争のために実現しなかったのは誠に残念であった。しかもIOC総会から帰国する氷川丸船上で治五郎さんは不帰の人となる。

さて治五郎さんは教育家でもあった。東大卒業後学習院の教師となり院長代理の仕事をした。初のヨーロッパ視察のち熊本の高校長となり、ここでは夏目漱石やラフカディオ・ハーンを教師として招いた。その次に一高(後の東大)校長となりすぐに東京高師校長となつて長く教師づくりに尽力した。ここでは清国留学生の教育を引き受け、その頃魯迅たちを教えたがそのために借金を作ったようだ。高師校長を辞めたあと神戸・灘中の創設にも尽力した。

治五郎さんは我孫子にとつても大事な人だ。別荘を構えるとすぐ隣に甥の柳宗悦を呼びよせた。そのあと志賀直哉・武者小路実篤が来て我孫子は「白樺村」と呼ばれた。我孫子が「文化都市」と言われるのは初めに治五郎さんが住んだからであり、いわば我孫子の恩人とと言えるのではないか。治五郎さんがヨーロッパ外遊でロンドンのイートン校を見学したとか、理想の学園づくりを目指したなど正確なことは不明だが、私の思いも述べたい。

治五郎さんに学ぶの一步は「まねぶ」だが、とてもとても真似など出来るわけではない。せめて我孫子の恩人として銅像を建てたいと思う次第である。ちょうど来年が生誕百六十一年の年にあたり、改めてオリンピックを見直してみたい。像の原型は文化勲章を受けた朝倉文夫さんの作であり、また我孫子に文化勲章の香が増し、東葛の地に得がたい大型銅像は我孫子の名物に値するのではないか。未長くこの地を訪れる人に元氣を与えてくれるのではないだろうか。ぜひとも立派な銅像を建立したいと思う次第である。(二〇一九年四月二十二日)

備考・・・NHKで放映されたこともあり「柔(やわら)体操」を参考にみていただきたい。

第133回 史跡文学散歩報告

—「西浅草コース」—

稲葉 義行

今回の「西浅草コース」は九月実施予定であった「西浅草と講道館発祥の地を訪ねる」を改めて計画したものです。

当日は、花曇りの中、越岡講師以下一八名で東武浅草駅下車、西浅草に行く予定でしたが、隅田川の兩岸は桜が満開で花見をしながらコースを巡ることにしました。

まず、浅草側の隅田公園を散策しましたが、レンタルの着物を着た外国人(天友が中国人が大勢いて国際色豊かな光景でした。隅田公園をぬけ在原業平の歌

名にし負はば いざこととはむ都鳥
わが思う人は ありやなしやと

に因んだ言問橋を渡り、牛島神社を参拝しました。この神社は貞観二年(八六〇年)、慈覚大師の御神託により創建され御祭神は須佐之男命(すさのおのみこと)、天之穂日命(あめのほひのみこと)、貞辰親王命(さだときしんのうのみこと)の三神を祀る総檜権現造の東都屈指の社殿です。境内は桜が満開で、家族連れの花見客で賑っていました。勝海舟像のある「すみだりパーサイド」を経由し吾妻橋を渡り、台東区に入りました。ここは、江戸時代には「竹町の渡し」があり安永三年(一七七四年)に有料の「大川橋」が架けられ明治九年に「吾妻橋」となりました。吾妻橋から隅田川を二〇〇メートル程下ったところに駒形堂があります。

駒形堂は葛飾北斎や安藤広重によつて浮世絵にも描かれており、本尊は馬頭観世音菩薩で天慶五年に安房守平公雅(たいらのきみまさ)により創建されました。推古天皇三十六年(六二八年)に浅草寺(本尊の聖観世音菩薩(しょうかんぜおんぼさつ)が宮戸川(隅田川)に示現された折、この地上陸されて草堂に祀られたという浅草寺発祥の霊地に建つお堂です。

並木通から雷門前を歩いて行くと、久保田万太郎

が二十六歳まで住んでいた「久保田万太郎生誕の地碑」があります。万太郎は二十三歳の時、処女作「朝顔」を『三田文学』に発表し、その後、多くの小説、戯曲を発表しておりますが、文字が小さいので有名であったそうです。芸術院会員、文化勲章受章者で昭和三十八年梅原龍三郎の誕生パーティーで赤貝を喉に詰まらせ窒息死しています。

国際通りを渡り、映画俳優の長谷川一夫や歌舞伎文字「勘亭流」の祖である岡崎屋勘六が眠っている「清光寺」を訪れました。墓所には入れませんでした。寺の玄關脇に碑と説明版がありました。

清光寺を抜け石川啄木の歌碑のある「等光寺」に行きました。歌碑は門を入つてすぐ右手にあり、

浅草の 夜のにぎはひに まぎれ入り
まぎれ出で来し さびしき心

と刻まれています。啄木は経済的には困窮していましたが、友人には恵まれ、啄木の名声が今日までも高いのは啄木の死後、土岐善麿が全集発刊に奔走したことによりです。歌碑のある等光寺は土岐善麿の実家になります。

等光寺に隣接して、東京本願寺があります。ここは、京都東本願寺の別院で、本願寺十一世教如上人により、天正十九年(一五九一年)に開創され、徳川家康から江戸神田に寺地を貰い、その後、浅草へ移転しました。

明暦の大火(一六五七年)に堂宇一切が焼失し、その後も、度重なる火災のため再建を重ねてきましたが、関東大震災で再度焼失し、昭和十四年(一九三九年)に現在の本堂が再建され今日に至っています。本尊は阿弥陀如来で四天王寺の法塔心柱をもつて制作された鎌倉時代前期の名作で、東京都の重要文化財となっています。境内には、昭和十二年(一九三七年)建立された金子堅太郎 題の「政治家たるもの常に死を賭して当たるべし」と説いた「憲政碑」があります。

次に、調理道具なら何でも揃う合羽橋道具街を経由し「正定寺」に行きました。ここには、幕末の剣豪「島田虎之助」と伊豆松崎出身で鰻絵の「伊豆長八」の

墓があります。その並びの「聖徳寺」は玉川上水開削工事の請負者の玉川兄弟の墓があり、東京都の史跡になっています。「聖徳寺」から南に百五十メートル程の所に「報恩寺」があり、境内にある梵鐘は慶安元年(一六四八年)に铸造され、昭和十八年に重要美術品に認定されています。また、高さ二メートル、重さ五三〇キロの鬼瓦がありました。

二百メートル北側には「源空寺」があり、江戸期の町奴幡随院長兵衛、江戸中期の文人画家「谷文晁」、江戸中期の曆学者「高橋至時」、わが国最初の実測精密地図を作つた「伊能忠敬」等の墓があります。「源空寺」近くには「法善寺」があり、『江戸名所図会』の作者斎藤長秋三代の墓があります。

最後に、「講道館柔道発祥の地の碑」がある「永昌寺」に行きました。嘉納治五郎は東京大学卒業の翌年、永昌寺内に居住し、書院を道場として柔道を中心に学生の訓育を始めました。この時、治五郎は二十三歳で、道場の広さは十二畳、初年の入門者は九名でした。「永昌寺」に来ての第一印象は大きな寺ではないことです。この書院で九名の学生に柔道を手ほどきするには狭すぎたのではないかと思われました。(写真は講道館柔道発祥の地の碑)



楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和九年

春 航空兵出征を送る

空行かば花に埋まる屍かも

春月や裾野は梨の花ざかり

さうなくは捨てかぬる土筆一つかな

濡筋に笹立てゝあり沼の春

ゆたのたゆたに舷(ふなばた)を打つ春の水

高らかに何呼ばふ花の諸聲(もろごえ)ぞ

ぶらこゝのまだ揺れてゐて芝の雨

磯とべら船路護(も)るてふ神の庭

長谷寺にて

渡殿に香染の僧衣霞けり

もくもくと山盛り上る新樹かな

富士山麓に鳥の巢を觀る

鳥の巢に分け入れば袖に山椒の香

第134回史跡文学散歩のお知らせ

「教育の森と小石川植物園周辺を訪ねる」

朝倉文夫(文化勳章受章者)が制作した嘉納治五郎

先生の銅像は国内の治五郎先生ゆかりの地、何ヶ所か

に建立されています。かつての東京高等師範学校跡地

は現在「教育の森」となり、ここにも銅像があります。

近くには小石川植物園や石川啄木終焉の地などいく

つもの観光スポットがあります。

来年夏前には我孫子の天神山緑地(嘉納別荘跡)に

同型の銅像が建立される予定です。銅像の縁で身近

になった小石川植物園周辺を訪ねてみませんか?

日時 6月16(日)9時、我孫子駅改札口内集合

(雨天中止)

講師・ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

行程 コース 茗荷谷駅→教育の森(占春園、嘉納治五

郎銅像)→石川啄木終焉の地→小石川植物園→

小石川養生所跡→小石川御薬園跡→白山御殿

(徳川綱吉、館林藩主時代の大名庭園)→甘藷試

作跡など

参加費 会員 無料、非会員 500円、弁当持参

申し込みTEL&FAX(7184)2047越岡まで

今後の行事予定

「二〇一九年度総会」

日時 5月26日(日) 15時30分

場所 アビスタ第4学習室

「美手連総会・記念講演会」

日時 6月1日(土) 14時30分(開場14時15分)

会場 手賀沼親水広場・水の館 3階

講師 伊藤一男氏(当会副会長)

演題 嘉納治五郎とオリンピックと我孫子

講演会に先立ち、13時より今年度の総会が開催

されます。

「放談」vol.4

日時 6月2日(日) 14時〜16時

会場 市民プラザ 会議室1

講師 三谷 和夫氏(当会元会長)

演題 嘉納治五郎先生に学ぶ

◎参加費 会員無料 非会員三〇〇円

申込みTEL&FAX(七二八五)〇六七五 佐々木まで

(講演概要については

6ページ「あびこだより 87号」を参照ください)

プロジェクト「巨木クラブ」予定

「樹木観察会」

第26回 5月17日(金)

「松戸21世紀の森」

集合 我孫子駅改札(8時50分)

行程 我孫子駅→千代田線新松戸→新八柱→松戸

21世紀の森中央口→園内→新八柱駅→我孫子駅

第27回 6月19日(水)

「筑波山・薬王院(仮)」

第28回 7月19日(金)

「皇居・東庭園(仮)」

プロジェクト「短歌の会」予定

5月28日(火)13時半〜第十七回短歌の会

けやきプラザ10階小会議室

友好団体の行事などの予定

当会と協力・協働の機会が多い友好団体の行事予定

などを適宜お知らせします。

◎あびこガイドクラブ

講演会

日時 7月13日(土) 10時より

会場 未定

講師 立堀隆三氏(元帝京大学教授)

演題 「鵑外と漱石の終活」(予定)

問い合わせ先(090-6546-0458新井)

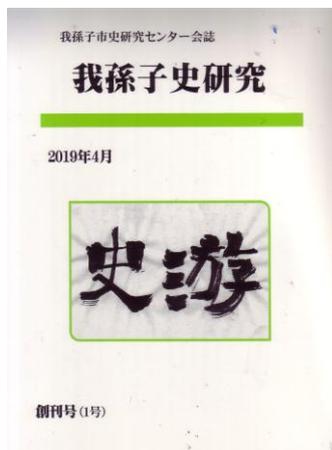
◎我孫子市史研究センター

『我孫子史研究』創刊号発行(左画像)

A5版(210mm×148mm)、184頁

販売価 1,000円(税込み)

問い合わせ先(04-7149-6404岡本)



編集後記

5月1日から、元号が「令和」に改められた。讓位による「御代替わり」は江戸時代の光格天皇の時以来、約200年振りという。光格天皇は中世以来絶えていた朝儀の再興、朝権の回復に熱心で、朝廷が近代天皇制へ移行する下地を作った天皇としてつとに有名だ。▲昭和から平成に変わる際は「自粛モード」が横溢していたが、今回は讓位が決定(平成30年5月)してから御代替わりまでの期間が長かったこともあり、一転して「お祭りモード」のきらいさえあった。また「平成最後の…」というフレーズが多く使われた。先だつての花見は「平成最後の花見」だ。というこで今回「令和最初の会報」をお届けします。(美崎)